

第72号 通巻13巻 第5号
1994年1月20日発行
守山市立埋蔵文化財センター
☎0775-85-4397
〒524-02
守山市服部町2250番地

はじめに

慌ただしく師走が過ぎ、平成6年を迎えましたが、正月はゆっくり過ごされたでしょうか。今年も発掘調査が目白押しで、1月4日は市庁舎で文化財係員の姿を見かけたのですが、5日には担当している市内各所の発掘現場に散って行きました。さて、今号では11月から12月末にかけて市内で行われた調査の概要や、川田町で発見された土塁の遺物についてお伝えします。

【発掘調査だより】

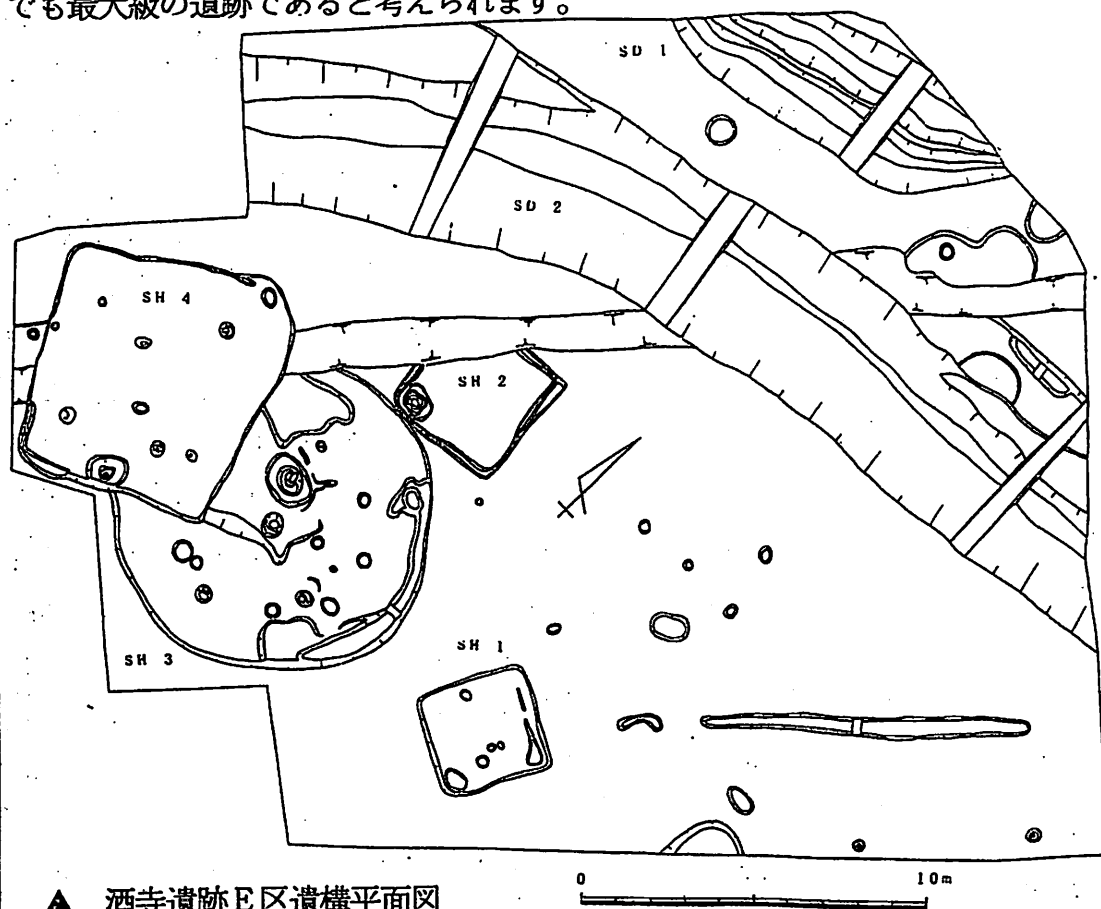
◆ 酒寺遺跡の調査

1 昨年より調査を進めている播磨田町の酒寺遺跡の調査も終盤をむかえています。12月には最後の調査区にあたるアミューズメント部分の調査をおこないました。この地点は酒寺遺跡と二ノ畦・横枕遺跡との境界にあたります。調査の結果、2条の大溝が検出された他、弥生時代中期末から後期初めにかけての竪穴住居4棟が発見されました。2条の大溝のうちSD-1は酒寺遺跡の弥生時代後期の集落をとりまく溝で、もう1条の溝は二ノ畦・横枕遺跡を囲うように湾曲していることから2つの遺跡の環濠が同調査地点で検出されたものと考えられます。酒寺遺跡の環濠は幅2～3mで、深さ1.2mを測り、朱を加工した石杵が出土した弥生時代後期の集落を囲う溝です。溝はアミューズメントの地点で90°に屈曲して

番号	遺 跡 名	所 在 地	調査原因	調 査 期 間	調査面積
①	酒 寺 遺 跡	播磨田町	店舗建築	前年度より継続調査	約10,000㎡
②	欲賀南遺 跡	欲 賀 町	ほ場整備	前年度より継続調査	約10,000㎡
③	益須寺遺 跡	吉 身 町	道路拡幅	10/20～12/2	約1,000㎡
④	伊 勢 遺 跡	伊 勢 町	区画整理	10/26～	約10,000㎡
⑤	酒 寺 遺 跡	播磨田町	店舗建築	11/～1/8	約800㎡
⑥	吉身西遺 跡	守 山 町	個人住宅	12/1～12/3	268.79㎡
⑦	八ノ坪遺 跡	播磨田町	宅地造成	12/13～	約10,000㎡

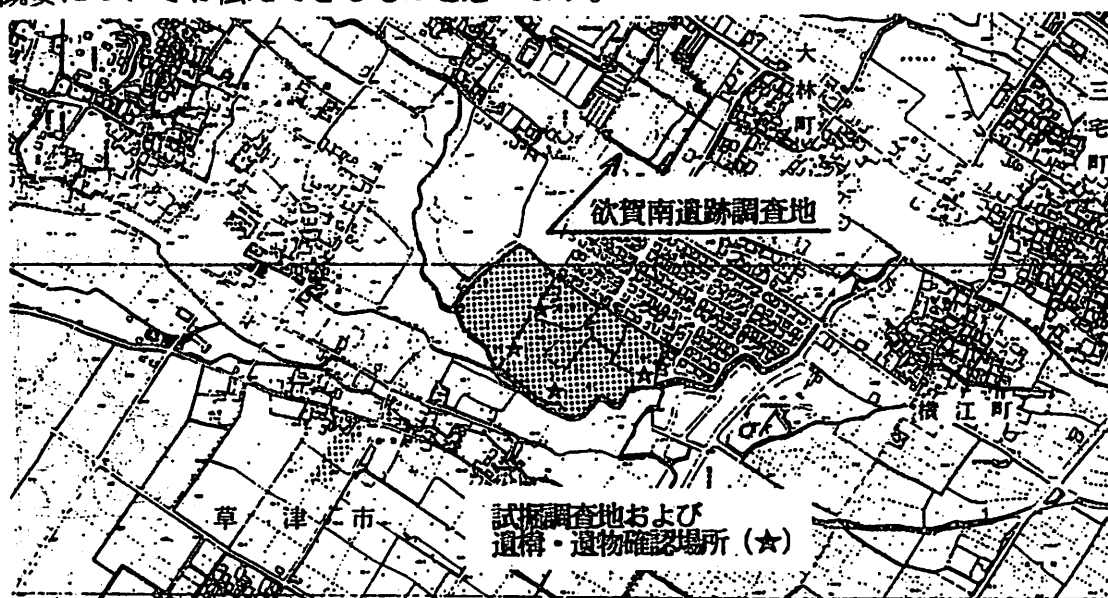
【平成5年11月～1月5日までの調査】

いて方形区画の環濠集落と考えられます。この濠の内側からは弥生時代中期末から後期末にかけての竪穴住居が14棟検出されています。溝底から出土した土器からみて弥生時代後期末に埋まったものと考えられます。二ノ畦・横枕遺跡の環濠は幅5～6m、深さ1.8mを測り、南東方向に向かって大きく湾曲しています。最下層から出土した土器からみて、弥生時代中期末から後期始めにかけて埋まり始め、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて再び掘り直されたと考えられます。この溝は、堅い礫層を削り貫いて掘られていて、その掘削は大変な作業であったとみられます。この溝の内側からは弥生時代中期末の土坑や弥生時代後期初頭の竪穴住居4棟が検出されていて、溝の廃絶の年代と一致します。竪穴住居は1棟が直径9mの円形住居で残り3棟は方形プランの住居です。円形住居を切っている方形住居は一辺6mの中型で、他2棟は4mを測る小型の住居です。今回検出された大溝は、その位置関係や廃絶の年代、溝や住居の形態から考えて二ノ畦・横枕遺跡の北限にあたると想定されます。かつての調査成果からみて弥生時代中期末から後期初頭における同遺跡の規模は南北550m、東西400mを測り、県内でも最大級の遺跡であると考えられます。



▲ 酒寺遺跡E区遺構平面図

概要についてお伝えできるものと思います。



▲ 欲賀南遺跡の調査地位置図

◆ 益須寺関連遺跡の調査

道路拡幅に伴い吉身小学校の東側で実施していた発掘調査も12月2日で終了しました。今回の調査では、奈良時代と平安時代から中世にかけて、そして近世以降の3つの遺構面が確認されました。奈良時代の遺構は溝や柵列などが検出されました。平安から中世の遺構としては溝と柱穴が検出されたものの、密度は希薄でした。近世の遺構は現在の中山道に接する地点において道路に平行するように溝が検出されました。この溝からは、陶器や瓦などが大量に出土していて江戸時代には中山道に沿って川が流れていたと考えられます。

◆ 八ノ坪遺跡の調査

播磨田町に所在する八ノ坪遺跡の調査を12月中旬から開始しました。場所は播磨田町集落北辺の水田地にあたり、宅地造成にともなう調査です。開発面積約2万㎡のうち、事前におこなった試掘調査の結果をもとにおよそ半分の1万㎡を、平成6年末までの期間で発掘調査する予定です。

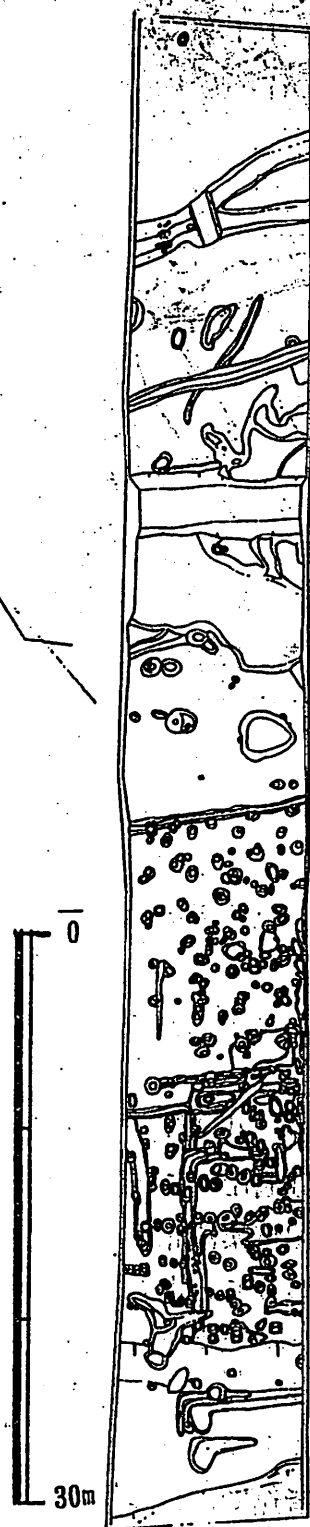
現在 1,000㎡を調査していますが、幅3m程の溝と直径20～40cmのピットが5条並ぶ柵列と考えられる遺構を検出しています。時期決定の手掛かりとなる土器は皆無で、いつごろの遺構であるのか断定できません。今後、調査が進行するに従って遺跡の性格が明らかになるものと思います。

◆ 伊勢遺跡の調査（第28次調査）

10月末から伊勢町字東中浦で土地区画整理事業に先立ち調査を実施しています。今回の調査地は伊勢遺跡が立地する微高地の南辺とその南側の低地部にあたります。これまでのところ、弥生時代後期の土坑、古墳時代後期の溝、鎌倉時代の掘立柱建物・溝・土坑・自然河川、江戸時代の土坑などが見つかっています。鎌倉時代の土坑には北側に黒色土器碗を伏せて置き焼土・炭・灰で埋まった土坑墓とみられるものと、割れた土器が多量に出土したゴミ捨て場と考えられるものがあります。このほか、土師皿を10～20数枚重ねて埋めた穴が3カ所で見つかっていて、土地の神様を鎮める祭りがおこなわれた跡と考えられます。

◆ 欲賀南遺跡の調査

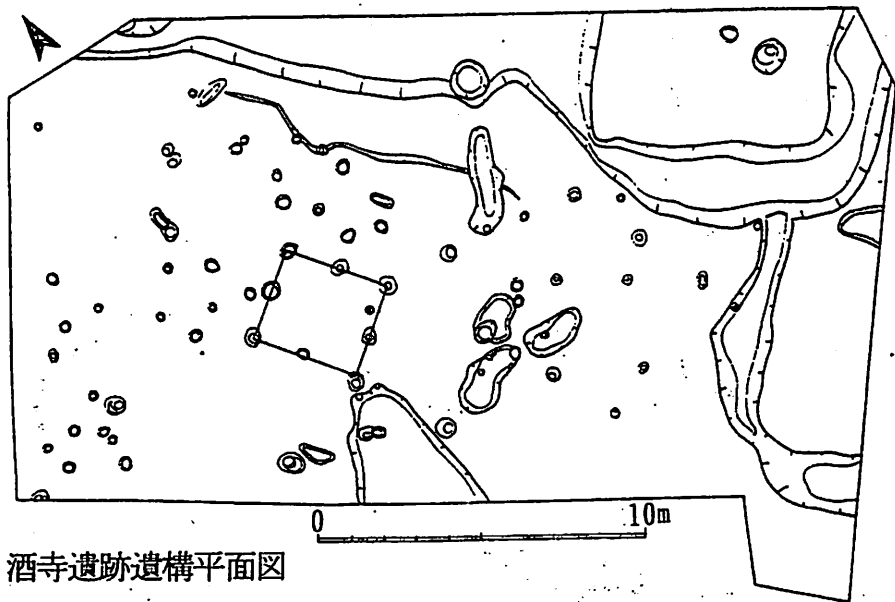
ほ場整理に伴い欲賀町集落の南側で排水路予定地部分と切土となる畑地部分の調査を行いました。排水路部分の調査では、遺構密度は希薄で柱穴4個と溝1条という状況でした。土器も少なく時期を決定するには至りませんでした。畑地部分の調査では、地表から1.5m下の礫層の上面で溝、柱穴などを検出しました。これらの遺構からは土師器皿や土釜などが出土していて14世紀代の集落跡と考えられます。さらに平成7年度に道路および水路工事が予定されている地域の試掘調査を11月から12月初旬にかけておこないました。その結果、4カ所で遺構・遺物が見つかり、この周辺に大規模な遺跡が広がっているものと考えられます。現在は欲賀集落の西側の『城』と呼ばれている地域で遺構の検出作業を行っています。溝、柱穴など多くの遺構が検出されていますが、次号ではその



▲ 伊勢遺跡遺構平面図

◆ 酒寺遺跡の調査

播磨田町の区画整理内で店舗建築に先立ち約 800㎡を調査しました。その結果、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての方形周溝墓4基・掘立柱建物1棟（2×2間）・土坑2基・柱穴などが検出されました。みつかった方形周溝墓の溝底では壺や高坏、甕が重なるようにして出土しています。



▲ 酒寺遺跡遺構平面図

§ § § § § § § § § § 川田町で近世の土塁を確認 § § § § § § § § § § § § § § § §

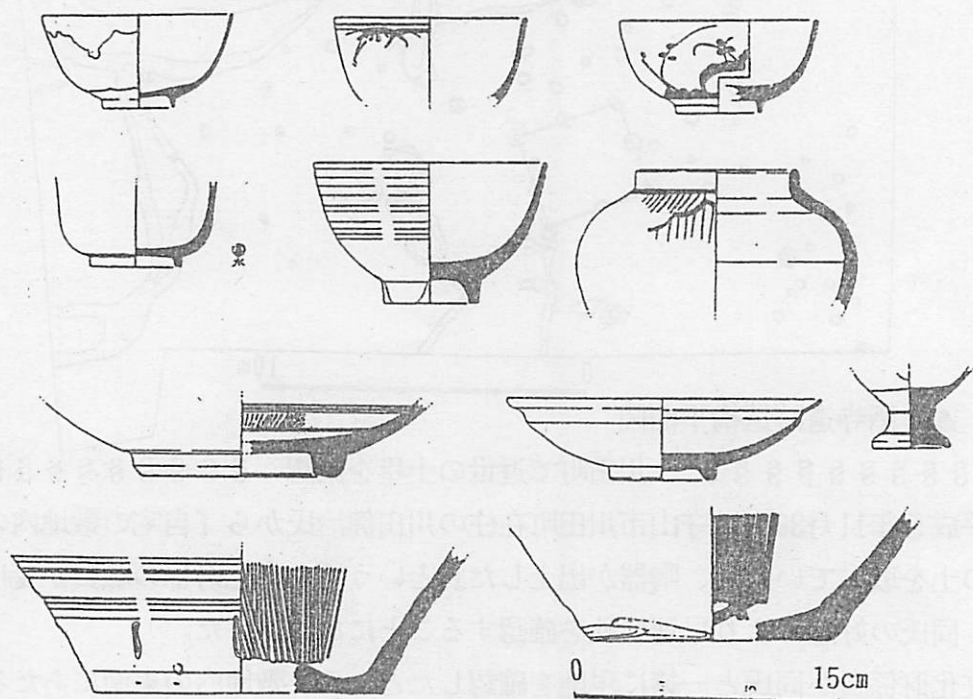
平成5年11月30日に守山市川田町在住の川田健治氏から『自宅の敷地内の堤防状の土を取っていたら、陶器が出土した』という話を文化財係の職員が受けたため、同氏の好意により早速現地を確認することになりました。

文化財係員が同氏と一緒に現地を確認したところ、敷地内の東南にあたる部分に一見土塁と考えられる高まりが確認されました。その長さは約10m、基底部の幅約5m、高さ 1.8m程の規模であることがわかりました。川田氏が陶器を発見した場所は土塁の基底部に近い位置であったことも確認されました。さらに『この場所からずっと北側に続いていたが、近年に畑や家の敷地に取り込まれて削平されたためこの場所しか残っていないが、もとは集落の東端にあった。土塁横の水路の東側にもやはりこのような高まりがあった。』との証言や伝承を聞くことができました。

出土した陶器類を洗浄したところ陶器・磁器のほか瓦も混じっていることがわかりました。これらは伊万里焼き・唐津焼き・京焼きなどの陶磁器で、信楽焼きの摺鉢もあり17～18世紀の遺物です。この土塁は昭和40年代の市史編纂の際にも調査されていますが、築造された年代については不明でした。今回基底部に近い

場所から土器が出土したことで、この遺構の年代が確実に押さえられたといえます。この土塁は、江戸時代に合村の消滅を目の当たりにした川田の村人が、野洲川の決壊に備えて挙って築造したものと考えられます。また、川田氏は上杉謙信に従った有力な武将であったともいわれ、その後裔が村を守るために築造した可能性もありますが、近世の動向からすると前者の蓋然性が高いと考えられます。

今回の発見によって、川田の土塁が近世に築かれたことが判明し、滋賀県の輪中の一例として貴重な資料といえます。



▲ 川田町の土塁から出土した陶器

§ § § § § § § § § 酒寺遺跡で現地説明会を開催 § § § § § § § § § § §

昨年12月12日(日)播磨田町の酒寺遺跡で調査終了に先立ち現地説明会を開催しました。今回の調査地点が酒寺遺跡と二ノ畦・横枕遺跡の境界にあたっていて、2つの遺跡ともに集落の回りに環濠を巡らせていることがわかりました。特に二ノ畦・横枕遺跡の環濠は全国でも最大級の規模であることがわかり、貴重な遺跡であることを再認識しました。説明会当日は天候にも恵まれ、全国各地から約500人に及ぶ見学者が訪れ遺構や出土した遺物に見入っていました。

編集後記 成人の日、20年前の『広報もりやま』で吉身北遺跡の試掘調査が開始されたという記事を見つけました。これから20年後、文化財を取り巻く環境はどのように変化しているのでしょうか。楽しみであり怖いような気がします。【BK】

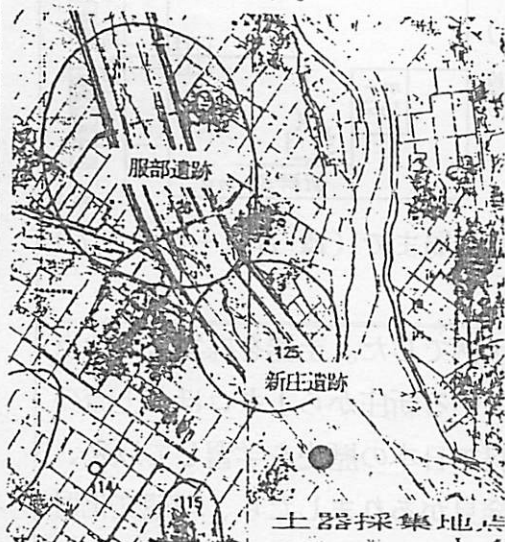
◆ 古高城遺跡の調査

共同住宅建築に先立つ調査で、調査は10月1日から同月15日まで実施しました。場所は古高町集落の中心部で、面積は約500㎡を測ります。今回の調査地東側の宅地は平成2年度に調査していて、鎌倉時代の掘立柱建物や溝が見つかっていますが、ここでは幅約15m、深さ30cmと広く浅い溝と、幅約60cm、深さ30cmの溝、そして柱穴数個の検出にとどまりました。前回調査で得た遺構の広がり、当地には及ばないようです。

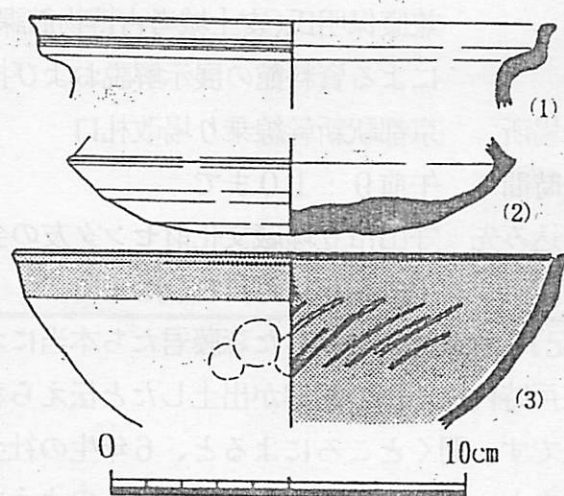
【新遺跡の発見】

◆ 野洲川で河西小学生が土器を採集

守山市田中町の野洲川の河川敷で河西小学校6年生4人（森藤・柴田・北小路・東出君）が大量の土器を採集しました。森藤君等は土器を守山市教育委員会の文化財係に届け、係員と再度現地を確認した結果、新しい遺跡であることがわかりました。河川敷には青灰色の粘土が露出していて、その中に大量の土器が散布していることから上流から流されてきたものではなくこの地域に大規模な遺跡が存在するものと考えられます。市教委では土器が採集された地点の小字名から、北川原遺跡として近く滋賀県および文化庁に届け出をおこない、遺跡地図の変更の手続きを行う予定です。採集された土器は弥生時代から平安時代末にかけての遺物で約100点をかぞえます。右図はその一部ですがNo1は弥生時代後期末の受口状口縁甕、No2は古墳時代末の坏、No3は平安時代末の黒色土器碗です。これらの土器は1000年程の時間幅があり、この遺跡が大規模な複合遺跡であることを物語っています。



▲ 新遺跡位置図

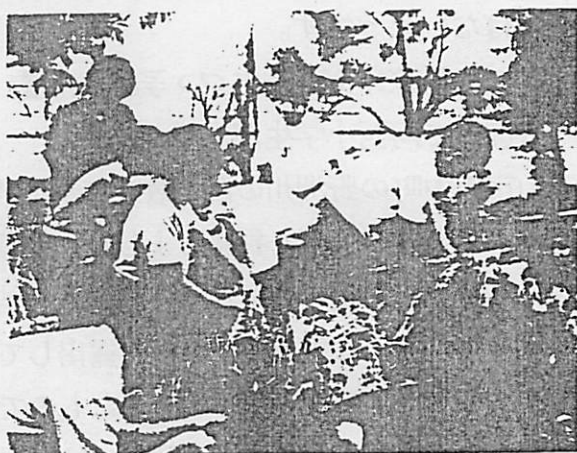


▲ 出土土器実測図

§§§§§§§§§§特別展終了！§§§§§§§§§§§§§§§§§§§§

平成5年度守山市立埋蔵文化財センターの特別展『稲作の古代史』も、9月29日をもって無事終了いたしました。期間中、300人を越える見学者を迎えたほか、講演会・体験学習会には多くの参加者がありました。特に、製作した弥生土器で米を炊いた9月23日(祝)の調理・試食会は好評で、土器の底についた『オコゲ』もきれいに平らげました。今年は長雨、冷夏などの自然災害によって米の不足が現実のものとなり、諸外国から米を緊急輸入する非常事態がおこっています。

今回は、農業を始めた弥生時代にまで溯り、衰退しつつある現代日本の農業について考える機会になればと思い企画しました。タイムリーな企画ではありましたが、簡単には解決しきれない大きなテーマであることを痛感した秋でした。



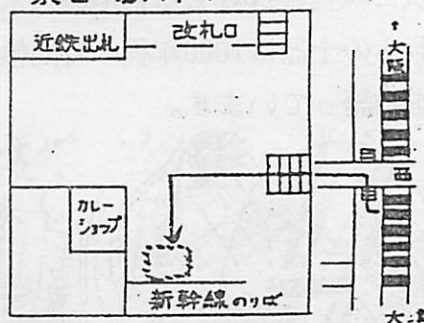
▲ 体験学習会(石包丁による稲の収穫)

《《《《《市立埋蔵文化財センター友の会からのお知らせ》》》》》

守山市立埋蔵文化財センター友の会では11月例会を下記のとおり行います。今回は奈良県への県外研修です。

日時 平成5年11月20日(土)
見学先 橿原考古博物館・平城京資料館
内容 兼康保明氏(安土城考古博物館課長)による資料館の展示解説および指導
集合場所 京都駅新幹線乗り場改札口
集合時間 午前9:10まで
申し込み先 守山市立埋蔵文化財センター友の会事務局まで(☎ 85-4397)
及び期限 平成5年11月17日(水)まで

集合場所(京都駅)



【後記】 新遺跡を発見した森藤君たち本当にお手柄でした。土器を採集した地点は江戸時代に4個の銅鐸が出土したと伝えられている新庄から1キロほど上流の地点です。聞くとところによると、6年生の社会科で日本の歴史を学習して以来、興味をもっていたということです。このような発見がありましたら、埋蔵文化財センターあるいは守山市生涯学習課文化財係までお知らせください。(BK)